F16・トマホーク配備阻止！56中業実施阻止！

12・8全国学生統一行動、9日中央行動成功へ！

11・20全国学生統一行動へ！

反核・反戦平和の圧倒的エネルギー示した10・24大阪行動

10・24大阪行動は、日本の平和運動史上最大の30万人の参加で成功しました。これは、教科書改ざんに対するアジア諸国民の怒りに応え、日本の軍事大国化を危惧する声が集約され、反侵略の立場や、女たちの広場など多数の広場がもたれ、軍事大国化に怒りを持った人々が多数参加しました。とりわけ学生の立場では、トマホーク、F16配備等、対ソ先制核使用を狙う兵器の配備が今日の侵略準備の要であること、それとともに56中業が、日本の自衛隊を侵略部隊化するものであることが言われました。そして、全国の学生のそうした日米一体化した侵略戦争準備に対する闘いが集約されました。

この10・24大阪行動の成功は、ヘゲモニーにV共産党（代々木系）の団体の妨害がありつつも、国民の中に巻き起った運動の成果＝反核のエネルギーが広範に存在していることを示し、ヘゲモニーにV系うした反核の運動は、反軍拡＝反軍事大国化へと対決点を前進させ、今日の日本政府の戦争政策との対決が鮮明になってきていることを示しています。

侵略準備の56中業、核安保強化粉砕！

戦争を防止する為には、継続的軍事演習、戦車戦演習などを行い、侵略へ向けての実践部隊化する自衛隊を、侵略部隊として成熟させる56中業の実質化を阻止することがその最重要環です。この日本の侵略国家化は、今日的には国民の団結＝権利切り捨て、学生に対しても学費値上げ、奨学金制度改悪をもたらし、最終的には、憲法改悪まで含めた国家総動員体制へと至るものです。

10・24大阪行動を中心に担った総評組織労働者は、生活破壊＝56中業の予算化を許さぬために月全産業統一ストをはじめ、全力をあげて政府を軍拡の立場に立たせていく闘いを強化しようとしています。私達学生も、これに断固連帯し、12・8不戦の日に向け、生活破壊＝56中業許さぬ闘いを構築せねばなりません。

クラス・学園から反侵略＝軍拡阻止の声を！

10・24に協賛を加えた「C自常」は、残念ながらこの期も日本の軍事大国化との対決をうち出さず、学費値上げとの対決にとどまっています。15日の「自治委員会」においてもどのクラスから、学費値上げ対決の報告がなされました。これに対し、Sのクラスから日本の軍事大国化阻止にむけたアピール等の報告がなされ、Jのクラスへも軍事大国化阻止の取り組みを行うよう訴えがありました。自衛隊の侵略部隊化は実戦段階に入っています。それを阻止する具体的取り組みが必要です。

11・20全国学生統一行動に参加しよう！

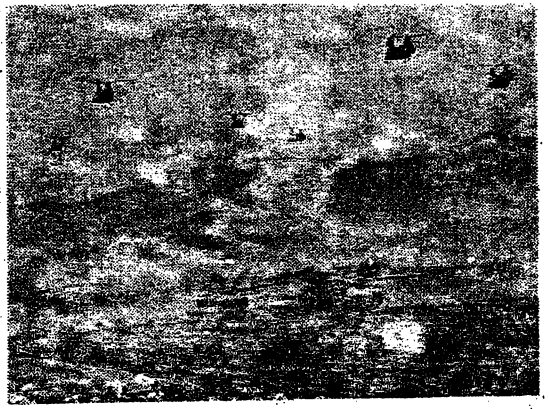
東富士日米陸上合同演習、ハワイ沖艦砲射撃演習を粉砕する集会を行います。若も参加して10・24の反核反軍拡のうねりを継承し、12・8不戦の日にむけ、56中業実質化阻止の声をつくりあげ、対決点を再侵略準備阻止へ高めよう！

C学生共同

"東富士陸上，ハワイ沖"日米合同演習糾弾！

② 侵略めざして連日 日米合同軍事演習

② 11/10～11/18 静岡・東富士演習場で これも初めて 陸自も、あす"実動"


東富士演習場での陸上自衛隊の展示演習（82年9月）

陸上自衛隊も，今回初めて日米合同演習を行うこととなった。今まで出来なかったのは，日本への陸上侵攻は現実には想定しずらく（ソ連極東軍は，800人乗りの上陸艦を一隻しかもたない），東南アジア諸国が攻めてくると考えられぬ以上，"他国侵略"のための演習であることが誰の目にも明らかであるからである。

56中業で1000両以上の戦車を調達し，どこで使うのか？侵略めざす実戦部隊化する自衛隊－56中業実質化許すな！

① 11/15～12/5 海上自衛隊の ハワイ派遣訓練 実戦色を強める

初の艦砲射撃も

"能力を身につけるべく演習している！"

これは明らかなように、敵地上陸"他国侵略"のため行うものである。自衛隊はそもそも、憲法第9条は、沖縄や硫黄島への第2次大戦時の米軍の上陸作戦を

① 警告するアジア諸国

インドネシア 10/25 毎日新聞

日本の軍拡は危険

インドネシア副大統領「既に領土侵略能力」

マリク副大統領

ジャカルタ二十五日事特派員＝インドネシアのマリク副大統領は二十五日、訪日から帰国したスハルト大統領と会談したあと記者団に「米国の援助で進められている日本と中国の軍拡はインドネシアにとって危険である。日本はすでに領土侵略の能力を持ち合わせている」と語った。

「日本が自衛のための軍事力を固めることはインドネシアにとって問題はない。しかし現在の日米の軍事力及び軍事力は領土侵略の能力を呼び起こす可能性がある。四十七年前、日本はすでにそれを実行し世界を驚かした。今日の日本が侵略する意図を持たないというのは論理的ではない。ASEAN諸国は一夜にして核兵器やミサイルを配備できる日本の防衛力を恐れている。日本の軍備増強はほっきりしているが、米国の援助によってどんなミサイルや潜水艦が開発されるかは予測できない」と述べた。

② タイ 11.9 朝日新聞

スティート・サワッシー氏 詩人、作家、文芸評論家。タマサート大卒業後、委員を経て「社会科学評論」編集長。吉三作家、詩人、当本家を組織して「三日月グループ」を結成。

「日本の軍事大国化をタイの知識人はみな危惧（きぐ）している。アジアの天然資源を日本は軍事力を使ってコントロールし、奪うつもりではないだろうか。日本は第二次大戦の教訓をもう十分学んでいない。東南アジアの他の国が日本を侵略することが不可能にならないことを考えれば、日本が軍事力を増強する理由は全くない」